



特定非営利活動法人

アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国貧困地域への教育支援

TAAAの活動日誌 2003年

- ・ 2003-12-1 [TAAA南ア帰国報告会案内](#)
- ・ 2003-11-20 [JICAと南アNGOとTAAAの共同でエイズ・ピア教育開始](#)
- ・ 2003-8-10 [図書車の巡回地域について 南ア連絡員報告](#)
- ・ 2003-6-14 [TAAA南ア帰国報告会案内](#)

2003年12月1日

TAAA南アフリカ報告会南アフリカの子ども達に伝えて

エイズ予防の学校教育と移動図書館活動

「アジア・アフリカと共に歩む会」(TAAA)は、11年間に南アフリカ共和国の教育事情の立ち遅れた地域の学校に英語の本(23万冊)と移動図書館車(14台)を送り、移動図書館活動を支援してきました。

国民の9人に1人がHIVに感染していると言われる南アフリカ。エイズを予防するための学校教育(2003~2005年)を日本のJICAとTAAAと南アのNGOがパートナーを組むことにより11月から開始しました。

日時: 2004年1月11日(日) 2時~4時(開場1時半)

会場: 埼玉県労働会館 4階 第6会議室 さいたま市浦和区常盤9-24-13

Tel 048-832-2151

(JR京浜東北線 北浦和駅西口駅前の国道17号線を東京方面に200m右側)

参加費: 500円

講師: 平林 薫 (TAAA南ア在住連絡員)、他

内容:

- ・ 三つの州で運行する移動図書館活動の状況
- ・ JICAと手を組む南アのエイズ教育プロジェクト
- ・ 南アにおけるエイズの状況と問題点、他

主催: アジア・アフリカと共に歩む会 Together with Africa and Asia Association

URL:<http://www.h4.dion.ne.jp/~taaa/>

協賛: 独立行政法人 国際協力機構 (JICA ジャイカ)

2003年11月20日

T A A Aが現地N G Oと手を組んで国際協力機構（J I C A）からの委託事業を始めます

事業名：南アフリカ共和国クワズールーナタール州ンドウェドウェ地域の学校におけるHIV/AIDSピア教育プロジェクト

国際協力機構（J I C A）が「N G Oとの連携」を目指して昨年から開始した「草の根技術協力事業」。T A A Aがそのうちの「草の根協力支援型」委託事業に応募して7ヶ月。いよいよ11月14日にJ I C Aとの契約が正式に結ばれ、事業が開始しました。T A A AがJ I C Aとパートナーを組むことによって委託金を得て、この事業を実現していくのです。

事業は、これまでT A A Aが10年にわたり英語本を送り、支援を続けてきたダーバンのN G O「E L E T」からの支援要請に応えるものです。南アフリカでは、H I V感染者が9人に1人といわれ、エイズにより親を亡くしたり、子ども達自身も感染の脅威にさらされています。

なかでも深刻な状況にあるクワズールーナタール州において、学校教育の中で、生徒から生徒へと伝えるHIV/AIDS予防教育を始めようという新しい試みです。E L E Tは、これから2年5ヶ月間、予防教育の教材開発や、ピア教師と呼ばれる先生役を務める生徒たちの研修をしながら、この活動が根付くよう、各学校を巡回しながらサポートしていきます。

南アでは今、英語や社会、理科、算数などの勉強と同じように、HIV/AIDSについての教育が必要となっています。今後、随時、皆さんにプロジェクトの内容をお知らせしていきたいと思います。
（T A A A 千葉愁子）

[▲トップへ](#)

2003年8月10日

南アフリカ帰国報告

2003年8月3日 埼玉県労働会館にて 平林 薫

新政9年目の南ア

アパルトヘイト終了から9年、南アフリカは着実に変化を遂げ、黒人層からも政界やビジネス界で活躍する人々が出てきている。電気、水道や年金制度なども改善されつつある。世界一危険な町と言われたジョハネスバーグは監視カメラの設置や警官の増員、再開発などによって生まれ変わろうとしている。その一方で、変化に取り残され、貧困の中で生きる人々が圧倒的に多いことも事実。黒人層の失業率は相変わらず40%以上。都市部への人口の流入も問題になっているが、都市部で定職を見つけるのは難しい。現在働き盛りの年齢層はアパルトヘイトの影響から基本的な教育を受けていない人が多いからである。

古い校舎と不法居住地域の学校

新政府は教育に力を入れているが、どこから手をつけていいのかわからないといった印象を受ける。アパートメント時代に黒人のホームランドと呼ばれていた地方の学校は、校舎があるだけで、白人の学校には当たり前にある図書室や音楽室、体育館やプール、実習室などはない。その校舎がぼろぼろになって状況は悪化している。都市部に流入してきた人々が生活するのは不法居住地域で、公共の土地に掘っ立て小屋を建てて住む。水道や電気はなく衛生状態も悪い。その地域が大きくなると学校が必要になってくる。校舎としてコンテナを使い、簡易トイレ、水道は外に蛇口がぼつんとあるだけ。このような学校に生徒が2000人もいたりするのである。TAAAの寄贈する本は、NGOや州教育省担当者を通して、そういった学校に配布され、教室の一つを図書室に改造したり、教室の片隅に"コーナー図書室"を設けたりしている。同じくTAAAが寄贈した移動図書館車に載せられて貸し出しが行なわれている。(写真:「図書館車に入る時は、しっ、静かに」)

MEIの図書館車33校を回る

TAAAは現在、南アの3つの州(ジョハネスバーグと首都プレトリアのあるハウテン州、ケープタウンのある西ケープ州、港町ダーバンのあるクワズルーナタール州)で行なわれている教育プロジェクトを支援している。MEIはジョハネスバーグから東へ25キロの金鉱の町ベノニにあるメソジスト教会ベースのNGOで、黒人居住区デベトンを中心に教育プロジェクトを行なっている。TAAAは移動図書館車1台と、本を寄贈している。白人女性アリソンと元教員のジョージ、運転手のアブソレムの3人を中心に活動し、図書館車は33校を訪問している。昨年受け取った本の中に絵本や易しいストーリーブックが多く入っていたことを大変喜んでた。

MEIを支援する私立高校

MEIは私立女子校のセント・アンドリュースと交流があり、5月末、6月末の合同ミーティングに参加した。同校では"ウバンビスワノ"というプロジェクトを設立し、土曜日にボランティアの先生がデベトンを訪ねて子供たちにスポーツや音楽を教えている。トレーシー先生は一般企業へも寄付を呼びかけ、プロジェクトは着実に大きくなっている。これでTAAA, MEI, ウバンビスワノと3団体がかっちりスクラムを組んで、デベトンを中心に周辺の黒人居住区や不法居住地域への教育支援をする体制が整った。

さらにMEIへ1台とストリートチルドレンへ1台

MEIはもう1台図書館車を巡回させたいと考えている。その際にはセント・アンドリュース校からも資金、物資両面の支援が期待できる。将来プロジェクトを行なう予定にしている地域の一つはハウテン州とプマランガ州の州境にある金鉱山周辺の不法居住区で、農家の跡地に建てられた学校を訪問した。この日、好天で風が強く、刺すような寒さの中、何人かの子供たちは裸足で学校に来ていた。農場主から借り受けた納屋などを改装したもので学校と呼べる設備ではない。これまで学校に行けなかったり、何十キロも歩いて通っていた子供たちにとって、近くの学校で勉強できるということだけでも嬉しいことなのだ。ジョハネスバーグにある路上生活の子供たちの世話をするNGOにも図書館車の寄贈を考えている。ここをベースにNGOや地域のセンターへの貸し出しや寄贈を行なう予定。

クワズルーナタール州(KZN州)教育省、教育図書情報技術サービス(ELITS)

6月中旬、クワズルーナタール州の移動図書館車プロジェクトを訪問した。同州にはTAAAより3台の移動図書館車が寄贈された。州の西部はドラケンス山脈が連なり、高いところでは2000メートル以上。中央部、東部には小高い丘が延々と続き、"千の丘の谷"という地名もある。(写真:丘陵地域を走る図書館車)

クワズルーナター州3台のうち1台

商業都市ダーバンをベースに黒人居住区イナダ周辺の17校を9月頃より巡回予定。この地域はダーバンからさほど離れてはいないが、学校の設備や交通の便が悪く、また少し奥に入ると図書館もない。巡回予定の5校を訪問したが、新設の1校を除き本がほとんどない状況。本の寄付の依頼と共に、教育用のおもちゃ、例えば数や時間を習うような教材や粘土などの古いものがあつたらぜひ送って欲しいとの要請があつた。

K Z N州の2台目の車

州北部、バズワナの教育センターをベースに40校を9月頃より巡回予定。この教育センターは民間企業と州教育省が出資して建設された。モザンビーク国境に近く、情報、設備に乏しい地域といえる。センターには図書室、コンピューター室、実験室、会議室などがあり、クラス単位で設備を利用できる。訪問当日も、会議や、教材を取りに来た先生方できわっていた。

K Z N州の3台目の車

州都ウルンディをベースに15校を回っている。昨年11月の訪問時には故障していたが、現在は順調に走っていた。ウルンディは州都といっても行政府があるのみで、貧しい地域である。山岳地帯で道路も悪いため、移動は大変。図書館車も1日1校のみの訪問で、週に5校、3週間を1サイクルとしている。周辺の学校では図書館車プロジェクトの話聞きつけ、自分達の学校にも巡回して欲しいと要望してきている。教育省から学校へのお知らせや教材なども車に載せられ届けられる。ウルンディの図書館車は州の各省庁の建物内に保管され、近くのE L I T Sの事務所に配車される。現在プロジェクトは、内勤が2名、図書の先生が2名、ドライバーとボランティアの若い女性各1名の計6名で行なわれている。バスを掃除し、教材などを積み込んで出発。砂埃の立つてこぼこ道に入り、小山を上がったたり下がったり。牛の群れと牛飼いに会おうくらいで、あたりは静まり返っている。図書館車は歓声を上げる子供たちに迎えられた。今回訪問したンシカイエムピロ小学校はグレード1-7までの生徒218人。校舎があるというだけ典型的な田舎の黒人居住地域の学校である。細々と放牧をするか、出稼ぎで家計を支えている。子供たちは素直で子供らしく、グメダ校長先生も、"ここは何もなく貧しいけれど、都会のような犯罪はないし、子供たちも素直で教育しやすい"と話していた。

本に目を輝かす子供たち

この地域で自分の本を所有できる子供たちはほとんどいない。子供たちは図書館車の訪問を待ちわび、目を輝かせて図書の先生の話聞く。バスが到着すると高学年の子供たちが教材などを運び出し準備をはじめ。サイドを開けて本をきれいに並べる。ここでも貸し出しは先生方によって行なわれる。子供たちは低学年から順に車の前に集まり、図書館や本の扱い方についてお話を聞く。その後、先生がそれぞれの学年にあつた本を一冊選んで朗読をする。最後に子供たちはバスの中を見学し、実際に自分で本を手にとってみる。低学年の子供たちが、初めて見るカラーの写真や絵が入った本を開くとき、なんともいえない表情をする。本の魅力を、驚きと感動をもって一瞬のうちに理解したような目。その輝いた目を見るたび、改めてT A A Aの活動に自信と誇りを持ち、もっともっとそんな目を見たいと思うのである。この日は男の子達が踊りを披露してくれた。足を高く上げ、地面を踏み鳴らすスタンプングは、もともと戦闘に出て行く男達が敵を威嚇し、士気を高めるもの。頭の上にまで足が上がる身体の柔軟さとリズム感は驚くほどだ。クワズルーナター州教育省は、新しい国が変わっていく上で教育が最も重要であるという強い認識をもって仕事をしている。次回の本の寄付はE L I T Sあてに送られることになり、T A A Aの本は移動図書館車に載せられたり、学校に寄贈されたりと、有効に利用されることだろう。(写真：車内で本を見るK Z N州の小学生)

2003年6月14日

TAAA南ア連絡員帰国報告会「南アフリカの子供たちは、今・・・」

南アで暮らすTAAAの連絡員である平林薫が一時帰国し、これまで送った本と移動図書館車の現地での利用状況と、現地の生活の状況を報告いたします。

日時： 2003年8月3日（日）2時～4時（1時半開場）

会場： 埼玉県労働会館 5階 13会議室 さいたま市浦和区常盤9-24-13
（JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩5分 Tel 048-832-2151）

参加費： 500円

講師： 平林 薫（TAAA南ア在住連絡員） 他

内容： ・「アジア・アフリカと共に歩む会」（TAAA）が送付した移動図書館車が巡回する地域と周辺の状況

- ・南ア現地のNGOの活動
- ・ストリート・チルドレンの施設へ本を配布する
- ・南アの現状と今後
- ・国内における英語の本と移動図書館車収集と輸送の活動報告
- ・学校におけるHIV/AIDSピア教育

主催： アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)

[▲トップへ](#)